

インバウンド観光サポート概論

授業科目名	インバウンド観光サポート概論	単位数 4 単位
英語標記	Introduction to Visit Japan Tourism	
授業コード	360303	
受講人数	50 人	
担当教員	林田 雅至	
対象	全研究科大学院生、3 年次以上の全学部生	
開講時間等	通年＝水曜 5 限 (4 月 14 日～)	
開講場所	豊中キャンパス：大学教育実践センター (後日決定)	
キーワード	Visit Japan, 多言語・多文化化政策, Language Barrier Free, 地域限定ガイド, 世界遺産研究	
授業の目的	1. わが国, とりわけ関西広域圏・大阪府における国際観光産業の取り組みの現状について把握し, 理解を深める. 2. 海外観光誘致事業, コンベンション誘致事業, 海外旅行業, 外国人旅行業, 大会運営業, 航空産業などの業態別分野について概観する. 3. 観光分野における「言葉の壁」を取り除く Language Barrier Free Strategy について具体例を示しながら, そのスキルをどのようにして身に付けるかを考える. 4. 世界遺産について例示しながら, 総論を展開し, また各論における研究を紹介する.	
講義内容	おおまかに以下の項目に従って授業は進められる. 1. 「21 世紀の観光産業」I－II 2. 「2 1 世紀のリーディング産業, 国際観光産業」I－II 3. 「外国人からみた関西観光の魅力」I－II 4. 「訪日外国人観光客をめぐる最近の動き」I－II 5. 「韓国観光公社の観光客誘致活活動」I－II 6. 「韓国の観光政策と観光資源」I－II 7. 「アメリカ系ホテルビジネスにつて」I－II 8. 「コンベンションの誘致活動と経済効果」I－II 9. 「日本における外国人旅行の動向」I－II 10. 「CRS ビジネスと今後の航空業界」I－II 11. 「外国から見た日本の観光資源」I－II 12. 「外国系航空会社の日本戦略について」I－II 13. 「日本の国際観光の変革と将来」I－II 14. 「国際観光のケース・スタディーのプレゼンテーション」I－II 15. まとめ, 模擬試験. なお本授業において, 国土交通省認可「旅程管理者資格」取得希望者はその基礎講習の一部を免除されていることを附言する.	
教科書	特に指定しないが, 必読文献はその都度配布する.	
参考書	毎回の授業の中で指摘する.	
成績評価	出席率 (3 分の 2 以上), レポート及び国土交通省認可「旅程管理者資格」模擬試験	

地域連携事業推進事業

これまでの経緯を書いておくと、02 年度から旧外大で地域連携事業推進事業が始まり、法人化後地域連携室が設置されたが、自治体・教育委員会などの要請に応じて実施した多言語・多文化社会に求められる人材の養成講座とともに、04 年度からは総合科目「国際観光産業の実務」を開設し、大阪観光コンベンション協会を筆頭に観光関連企業のバックアップで受講生の人材育成に取り組み始めた。また 05 - 06 年度には「言葉の壁」の克服を旗印とする大阪府・大阪市観光共同事業「大阪おいでやすプロジェクト」(経済産業省認可)を共同展開した。

Visit Japan

2010 年までに関西広域圏で設定された目標が 200 万人の観光客誘致事業である Visit Japan で、中国大陸 2000 万人富裕層を始めとする膨大な数の中国人観光客のアテンド業務に東奔西走する観光ビジネス人材は忙殺されている。が、ここでは十二分な市場が存在し、国家資格制度にささえられ、客観的に外国語運用能力も含む「観光学能力」を保証された人材は労働への正当な対価が支払われているという構図がある。一方、人材のより高度な資質養成のために旧外大が主催した CSR(企業の社会的責任)公開講座「世界遺産セミナー」も盛況であった。

「地域限定ガイド」

こうした観光産業国策において「地域限定ガイド」の意義付けを通して、Visit Japan, Visit Osaka 構想を概観し、考察を加える。海外観光誘致事業、コンベンション誘致事業、海外旅行業、外国人旅行業、大会運営業、航空産業などの業態別分野について各専門企業人をゲストスピーカー(原則としてボランティア)として迎える予定である。

国際交流型「世界遺産研究」

また世界遺産「石見銀山」についてはイコモスからの注文もあり、中国大陸への銀売却を証明するモンスーン貿易文書のさらなる発見が望まれており(「朝日 21 関西スクエア」第 97 号 HP 参照)、2008 年度より外国語学部で関連授業(集中講義)が開設された。さらに昨年度世界遺産巡礼姉妹道「サンティアゴ・デ・コンポステラ」「熊野古道」(ガリシア州同名大学は本学と学術交流協定校)なども含む「世界遺産研究」窓口を設けた(場所は豊中キャンパス CSCD 林田研究室)。